

老若住店街

シェアハウスと地域包括ケアシステムを用いた大町地区の未来

The elderly and the young people of commercial housing

Omachi district future of using the share house and the Regional Comprehensive Care System

佐藤信治¹, 山川大喜², 〇出山亮², 斉藤賢司³, 重田秀之³, 衛藤成波³, 谷醒龍³, 新部瑠介³Shinji Sato¹, Yamakawa Hiroki², *Deyama Ryo²saitou Kenji³, Sigeta Hideyuki³, Etou Seiha³, Koku Seiryuu³, Niibe Yousuke³

Vacant house number of Akita Prefecture Odate has increased 1000 units or more over the 2014 fiscal year from the 2009 fiscal year, it has increased to five years more than three times. In addition, the empty house of Odate compared to the vacancy rate nationwide and Akita Prefecture the rate has become a relatively high numbers with 14.2 percent. this means that than, find that the increase in empty house in Odate is a serious problem, consider the vacant house of utilization methods can be said that there is an urgent need. this plan in the resurrection and the former town of symbol, young people, strangers of acceptance, even by carrying out the installation of the AC base for local elderly, Akita Prefecture Odate Omachi district as an area of "housing", the area of intersection of young and old proposal we do to regain former bustle as.

1. はじめに

秋田県大館市の空き家数は平成 21 年度から平成 26 年度にかけて 1000 戸以上増加しており, 5 年間に 3 倍以上増加している。また, 全国及び秋田県の空き家率に比べ大館市の空き家率は 14.2 パーセントと比較的高めの数値となっている。このことより, 大館市において空き家の増加は深刻な問題であることがわかり, 空き家の活用方法の検討が急務であるといえる。本計画では, かつて町のシンボルであった正札竹村が新たにシェアハウスとして生まれ変わることから始める。正札竹村の閉店により人通りの少なくなってしまった既存の通りはシェアハウスや地域包括ケアシステムの一部として生まれ変わり, 若者やよそ者は街の老人に活力を与え, 街の老人からは知識と経験を与える。そんな老若が混じり合った新しい老若住店街を提案する。

2. 計画背景

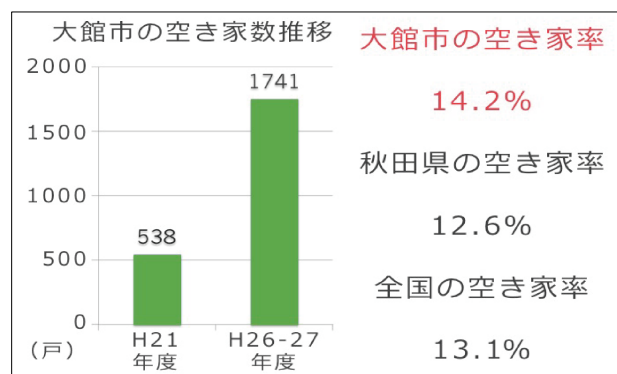
2-1. 大館市の高齢化

大館市の高齢者人口は 2020 年の 2 万 6 千人をピークにして減少することが予想されている。大館市の高齢化率は 2010 年に 30 パーセントを超え, 2030 年には 40 パーセントに上り, その後も増加して行くことが見込まれている。このことより, 大館市の高齢化問題は, より進展して行く予想されるため, 地域の高齢者への配慮が必要になってくると考えられる。

2-2. 大館市の空き家問題

大館市の空き家数は平成 21 年度から平成 26 年度にかけて 1000 戸以上増加しており, 5 年間に 3 倍以上増加している。また, 全国及び秋田県の空き家率に比べ大館

市の空き家率は 14.2 パーセントと比較的高めの数値となっている。大館市において空き家の増加は深刻な問題であり, 今後の空き家の活用方法の検討が急務である。



(fig.1 Vacancy rate)

2-3. 若者の田舎に対する憧れ

全国の若者へのアンケート調査において, 地方の生活に憧れている人の割合は 47 パーセントとなっており, 若者の約半数が地方での生活に憧れている。理由として通勤ラッシュと無縁の生活や, 豊かな自然に囲まれて生活するなど, 地方の魅力に憧れを抱く若者が多いからである。これらより, 日本の若者の地方への移住に関しては多くの関心が集まっているといえるため, 今後の受け入れ体制の強化が必要になってくる。

2-4. 地域包括ケアシステムの導入

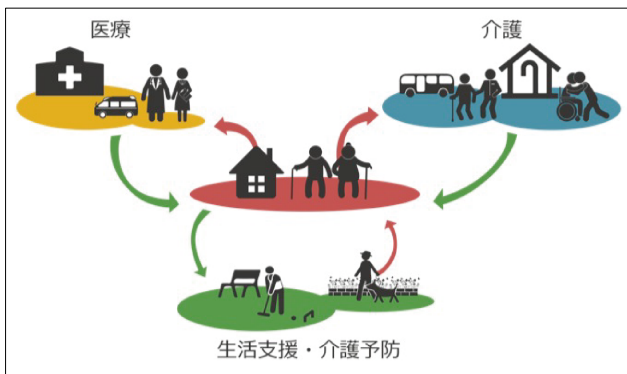
地域包括ケアシステムは, 住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供することで, 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにする事である。おおむね 30 分以内に必要な

1 : 日大理工・教師・海建 Department of OceanicArchitecture&Engineering, CST., Nihon-U.

2 : 日大理工・院(前)・海建 Department of OceanicArchitecture&Engineering, CST., Nihon-U.

3 : 日大理工・学部・海建 Department of OceanicArchitecture&Engineering, CST., Nihon-U.

サービスが提供される日常生活圏内を単位として想定している。今後、高齢者の増加傾向にある地方都市において、地域包括ケアシステムの導入が求められる。



(fig. 2 Regional Comprehensive Care System)

3. 計画方針

3-1 交流拠点となる「シェアハウス」

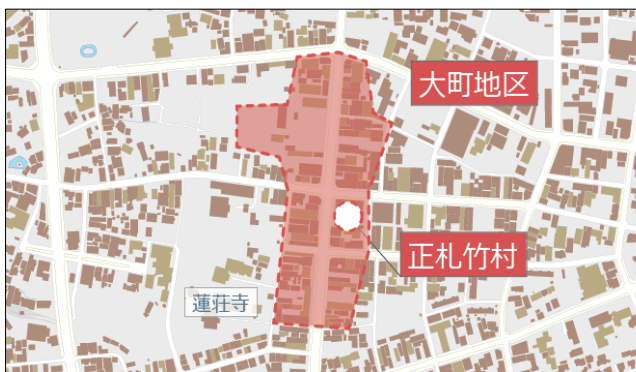
よそ者である若者は地方への興味はあるが、同時に知らない土地への不安も抱く。そこで、若者の受け入れ場所として、商業を複合したシェアハウスを設けることで、まちに昔から住む老人との交流を生みだし、まちなぎわいを取り戻す。

3-2 地域包括ケアを用いた空き家の再生

商店街で、空き家となってしまった店舗を地域包括ケアシステムの一部として活用することで、まちの循環を再び取り戻す。

4. 計画敷地選定

大館の地域別構想参考に,[大館東地域]ながきにわたって歓迎するまちである,大館市大町地区を「住」のエリアとして、老若の交わるエリアとしてかつての賑わいを取り戻す提案を行う。



(fig. 3 site plan)

4-1. 地域別構想

秋田県大館市では6つの地域に分け,地域ごとにテーマを定め,まちづくりを行っている。

[田代地域]自然を活かした住環境のまち

[大館西地域]史跡・農工・水と緑の再生のまち

[比内地域]比内ブランドを活かしたまち

[大館北地域]きれいな水のまち

[大館東地域]ながきにわたって歓迎するまち

[大館南地域]体にやさしいまち

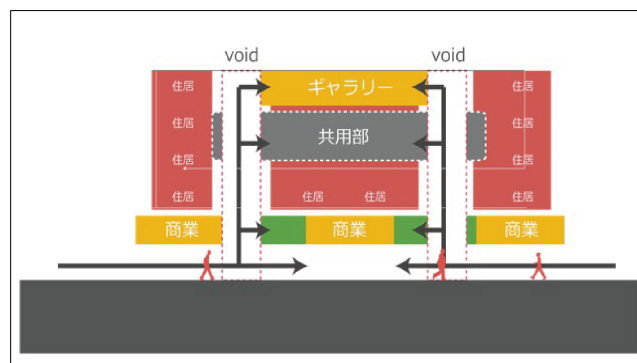
4-2. 正札竹村

大町地区の一角に位置する正札竹村. 2001年7月2日、140年以上の歴史に幕を下ろした。この場所は、大館市の中心市街地の「へそ」であり、街の歴史には欠かすことができない。かつて鉱山で栄え、県下第2位の都市でもあった大館市のシンボルともいえる建物である。そのため、その存在の消滅とともに、まちはシンボルを失った。竹村によってにぎわっていた過去の大町。正札竹村をシェアハウスとして立て替えることで、かつてのまちなぎわいを取り戻す。

5. 建築計画

5-1 交流拠点となる「シェアハウス」

現在、通り抜けのできない旧正札竹村の一層部分をピロティとすることで、商店街に新たな流れをつくる。さらに、低層部から順に商業・管理・住居を設ける。両サイドには大きなボイドを2つ設けることで、住居と商業の立体的なつながりを創出し、シェアハウスの住人とまちなぎわいの人とが交流を持てる構成とする。



(fig. 4 diagram)

5-2 地域包括ケアを用いた空き家の再生

旧正札竹村がシェアハウスへと生まれ変わることから始まり、空き店舗を地域包括ケアシステムの一部として、医療・介護・介護予防などの機能へと立て替える。その際、秋田杉の集成材を用いて、ファサードのデザインを行うことで、かつての賑わいを取り戻しつつ、新たな街並へと更新していく。

[参考文献]

[1]「大館都市計画マスタープラン」, 1997
第5章まちづくりの方針(地域別構想)

[2]「ART NPO ゼロダテ」

<http://shofudatakemura.zero-date.org/>

[3]「大館市HP」

<http://www.city.odate.akita.jp/>